

論文要旨

所属ゼミ	小林研究会	学籍番号	80218382	氏名	酒井 美智子
(論文題名)					
リストラクチャリングの手法としてのダイベスティチャーの研究					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、この10年に渡る長期不況を脱するためには大企業のリストラクチャリングが必要であり、その手法としてダイベスティチャーが行われることが日本経済にとって重要であるとの考えた上で、有効なダイベスティチャーとはどのようなものかを研究課題とした。</p> <p>分析はダイベスティチャー案件30件の株価への相関を実証することで行った。ダイベスティチャーは株価に正の相関をすると考え(仮説1)た上で、さらにダイベスティチャーを対象事業のPreの収益性(仮説2)と、回収資金のPostでの投下先(仮説3)に分類し、Pre要因とPost要因によって株価に相関があるとの仮説を検証するために、イベントスタディを行った。また、4社の事例研究を行うことでPre要因とPost要因のいずれがより大きな影響があるか、リストラクチャリング計画全体の中でのダイベスティチャーがどのような位置付けにあることが望ましいかを検証した。</p> <p>結論としては以下の点が導き出されている。</p> <ol style="list-style-type: none">1、赤字事業のダイベスティチャーは株価に正の相関があり、躊躇なく行われるべきである。2、財務リストラクチャリングを行う際は、同時に包括的なリストラクチャリング計画を策定するべきであり、それは将来志向の観点に立った事業リストラクチャリングを含むべきである。3、ダイベスティチャーは業界他社よりも先んじて行った方が株価へ正の影響が大きくなる。					